

書道家吉川晶さんが卒業個展を開催  
伝えたい想いを書にのせて

福智町出身の書道家吉川晶さんが、大学4年間の集大成として3月13日から18日まで、田川市美術館で個展を開催しました。会場には、地元へ根付いた作品作りと「愛」をテーマに、言葉と線に思いをのせて制作した22作品を展示。4月13日には役場を訪問し、展示していた作品の中から2作品を寄贈しました。寄贈された作品は、役場本庁1階に展示しています。



↑「私を支えてくださった全ての方に心から感謝したい」と笑顔で語る吉川晶さん。

↓クラスではリラックスして、新しい友達や先生とすぐにうち解けた様子でした。



町内8校で入学式  
期待を胸に新生活がスタート

町内の小学校5校で4月10日に、中学校3校で4月11日に入学式が行われました。本年度は小学校で214人(市場小63、上野小20、金田小81、弁城小2、伊方小48)、中学校で209人(赤池中74、金田中75、方城中60)の新1年生が期待を胸に入学しました。市場小では、元気いっぱいにあいさつをする声が響き、担任の先生の話の聞き逃すまいとする、一生懸命な姿がとても印象的でした。

長谷川法世さんが窯元を訪問  
上野焼の歴史と文化を後世に

上野焼を題材に漫画を執筆する漫画家長谷川法世さんが、3月29日に渡窯を訪問しました。漫画は福智町の事業で制作されており、小学生が地元の歴史や文化を学ぶ社会科の教材に使われる予定。両親が旧赤池町出身で自身も本町で生まれた縁があり、長谷川さんが子どもたちのためにと快諾して、今回の訪問はその取材の一環として行われました。



↑陶片を手に、約400年の歴史を誇る上野焼のルーツを探る長谷川法世さん。

↓サケの遡上を願って、稚魚が入ったバケツを傾けて放流する方城中の生徒たち。



彦山川河川敷の清掃活動とサケの稚魚放流  
川と生命の尊さに触れる

3月19日に方城伊方大橋の高架下でサケの稚魚の放流が行われました。ひこさんがわ夢の会が主催し、方城中1年生など約100人が参加。河川敷の清掃活動や水質調査の学習会で川の重要性を学んだ後、サケの稚魚約4千匹を放流しました。参加した生徒は、「4年後にまた会おうね」と稚魚に優しく話しかけ、再会のために川を守っていくことを誓いました。

↓県内最大級の「エドヒガン」で、推定樹齢600年以上。鮮やかな緑色の桜は、息をのむほどの美しさです。



春の訪れを告げる虎尾桜  
満開の巨桜福智山中に咲く

新緑と川のせせらぎを感じながら福智山を登ると、突如として誇り高さ一本桜「虎尾桜」が姿を現します。今年は厳しい寒さの影響で全国的に花芽の生長が遅く、虎尾桜も例年よりも遅い4月9日頃に満開を迎えました。かつては一年おきに開花していましたが、「虎尾桜を心配する世話人会」らの整備が実り、今年も見事な緋色の花を咲かせました。テレビなどでも紹介され、日本の名桜100選に選ばれたこの巨桜を一目見ようと、県内外から多くの方が訪れ、雄大な姿をその目に焼き付けていました。

「ひこさんがわ夢の会」鯉のぼり掲揚  
春風に今年も夢を乗せて

4月14日に行われた「ひこさんがわ夢の会」の鯉のぼり掲揚も15回目を迎えました。例年、不用になった鯉のぼりの寄付を募っていましたが、家庭での風習が薄れたこともあり、数が減少。今年は50匹の掲揚となりましたが、夢の会のメンバーは、「みんなの手で川をきれいに」という思いと子どもたちの笑顔のために、福智の空に色とりどりの鯉を泳がせていました。



↑約50人が2班に分かれ、大きさや配色を考えながら丁寧に取り付けしていました。

↓揃いはっぴを身に纏い、みんなで力を合わせて山笠をひく子どもたち(町部)。



金田菅原神社春祭り神幸祭  
掛け声を合わせて一心に

4月14日・15日の2日間、金田菅原神社神幸祭が催されました。春祭り山笠は青少年の健全育成を目的に、平成9年に復活。今では5つの地域が参加し、熱気あふれる秋の山笠とは異なり、子どもが主役の春祭りです。鮮やかなはっぴに身を包んだ子どもたちは、威勢の良い「オーラーヤッサ」の掛け声と共に、大人顔負けの迫力で、福智町を練り歩きました。